

第2回 川越市総合計画審議会 議事要旨

1. 開催日時 平成22年4月21日（水）午後3時～午後5時

2. 開催場所 川越市市民会館 第1会議室

3. 出席者

立原、梶川、岩崎、内田、大河内、岡田、小室、櫻井、高田、長井、鍋田、山岡、山木、関口、小野澤、柿田、牛窪、近藤、倉嶋、江田、伊藤、井上、中島、野澤、真下、嶋村、關、土橋の各委員

4. 会議の概要

1 開会

2 会長あいさつ

前回の会議では、市長から、様々な社会情勢の変化や、行政上の課題等を考慮しながら2つの大きな視点を持って計画策定に取り組んで頂きたいという話があった。1つ目は、市民にとって分かりやすい計画とすること、2つ目は財政状況を考慮した計画にしていきたいということであった。先日、送付された後期基本計画の原案には、財政収支の見通しと小江戸かわごえの重点戦略が前期計画には無い項目として記載されており、市長の発言の意図が伺える計画となっている。

本日は、前期基本計画の施策と進捗状況について、慎重に審議を行って参りたい。委員の皆様の忌憚のないご意見と活発なご議論、ご協力をお願いしたい。

3 委員紹介

前回、欠席した野澤委員の紹介を行った。

4 職員紹介

大野副市長以下、市の担当職員の紹介を行った。

5 議事 ～第三次川越市総合計画前期基本計画の進ちょく状況について～

(1) 前回議事要旨の報告

前回の議事要旨について、市ホームページに掲載をした。

(2) 関係資料の説明

事務局から配布資料の確認と資料説明が行われ、資料に関連して次のような意見交換が行われた。

【主な意見交換及び質疑応答】

- 評価について、担当部署の判断で評価をされたということであるが、自己評価は甘くなりがちなので、第三者や外部の目線も加えた上での評価を導入した方がよかったのではないか。
 - ・できるだけ客観的な評価指標を用いたところである。今後の課題として、外部評価の導入についても検討させて頂きたい。
 - これまでの5年間の取り組みの総括としてはどのようにお考えか。
 - ・資料1-6に総括として纏めさせて頂いているが、59施策のうち57施策が概ね順調に推移している半面、数値的な状況で見ると、停滞している、あるいは悪化しているものもある。ある程度、施策の推進は図られていると認識をしている一方で、必ずしも、成果と一致していない部分も出て来ているという認識もしている。
 - 評価の仕方について、どの市も同様な方法で行っているのか。また、どの程度のレベルや時点で着手していると言えるのか。
 - ・評価した件数が493件と膨大な数であり、達成レベルはそれぞれ異なるため、行政としては、ある程度何らかの活動をしていれば、着手をしていると見なし評価を行っている部分もある。また、他市については、川越市と同様な手法を用いて評価する市もあれば、外部評価の導入や、数値を基本にした評価を行うという市もあり、各市様々な方法で評価を行っているようである。
 - 今年度、C評価が付いた施策に関しては後期基本計画にも継続されるのか、それとも今年度で終了するのか。
 - ・C評価が付いた施策に関して、ニーズの状況を勘案し、引き続き必要なものは後期基本計画の原案で引き継いでおり、また、予算等の関係で終了したものもある。
 - 土地利用構想があるが、5年間全く進んでいないことから、白紙に戻しても良いのではないだろうか。
 - ・実際は、認識されているところと異なる部分もあり、章ごとの説明のときにご報告させて頂きたい。
 - 評価を生かすことが今後のポイントになって来るかと思われるが、前期と後期の施策の動きの対比表などを作成して頂ければと思う。
 - ・ボリュームが多くなってしまいが、前期と後期の施策の動きの対比表という形で、原案の分野別施策の検討に入る際に準備させて頂きたい。
- **共通施策 協働によるまちづくりと健全で効率的な行財政運営の推進**
- 「成果を重視したマネジメントサイクルの確立」についてB評価ということであるが、詳細を教えて頂きたい。
 - ・平成19年10月に内部で財務会計システムの検討部会を設置し、平成21年度の新しいシステム導入を目指して検討を進めて来た。従来は、PDCAサイク

ルのなかのPに当たる総合計画・実施計画、Dに当たる予算編成・執行部分、Cに当たる事務事業・事業評価の部分について、互いに関連を持たず連動していなかった。そこで、費用と時間をかけ新たなシステムを導入し、平成23年度予算分から、実施計画と連動して予算編成が可能になったことを踏まえ、システム見直しが完了したと判断し、現在、資料に掲載をさせて頂いた。今後は、PDCAのサイクルがうまく流れて行くものと考えている。

➤ 第1章 ともに助け合い、一人ひとりが健康でいきいきと安心して暮らせるまち

- 障害者福祉の考え方に関して、今後は、重度や軽度という指標ではなく、社会への参加の度合いによって福祉関連費用を活用するという方向で変化して行くものと思われる。生きがいについて、高齢者も障害者も一般の人も含めて様々な考え方があるが、よく対応されている気がする。「生きがい対策の充実」について、評価としてCという出し方は、非常に良かったのではないだろうか。引き続き取り組んで頂きたい。
- 「1-1-1 児童福祉の推進」に関して、待機児童の数が減少傾向ということであるが、一方で、社会情勢的には増加しているとも聞いており、どのように理解すれば良いのか。
 - ・H22年度までに待機児童0（ゼロ）を目指すということで数値目標を掲げている。社会情勢的に待機児童数が増加している現状もあるが、川越市では、昨年度定員数を増加させた関係もあり、今年度は昨年度よりも待機児童数が減少していると認識している。今後も減少を目指して努力を重ねて参りたい。
- 「1-1-3 障害者福祉の推進」に関して、H18～H20年度は表中「－」となっているが、調査を実施していないということなのか。
 - ・障害者計画を当方で策定し、H17年当時、市民アンケートを実施し満足度調査を行った。H18～H20年度については調査を行っていないが、今年度以降は調査を実施して行きたいと考えている。
- 「生きがい対策の充実」の評価だけがなぜCとなっているのか。例えば寝たきりで社会に容易に出られないような方々の生きがいについて、どのように評価しているのか。
 - ・様々な方の生きがい対策という視点から、高齢者や寝たきりの方に限定して考えるのでは意味が無いと考え、未着手としている。
 - ・生きがいの対策について、行政側としては人材活用システムを施策として掲げたが、それが出来ていないということでCという評価を下した。今後、新しい計画を議論して行く上で、委員の指摘した視点は非常に役に立つものであると捉えている。
- 「1-1-2 高齢者福祉の推進」に関して「自治会老人憩いの家」について、補助金等の問題もあり、数値目標を達成することは、なかなか難しいと思われる。

H19 年度から H20 年度にかけても、1 箇所しか増えておらず、今後も同様な傾向が続くと思われるが、そのような点についてご意見を伺いたい。

- ・ご指摘の部分に関して、補助金等の関係もあり、H22 年度の数値目標 64 箇所については、現時点では達成できておらず、課題となっている。今後の課題として現下の経済状況等もあり、数値的な目標の設定については、実現可能なものとするのか等の点を踏まえながら、更に検討させて頂きたい。

➤ 第 2 章 学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐくむまち

- 「2-2-2 教育環境の整備・充実」に関連し、耐震補強工事の進捗率について H22 年度の目標値 43.2%に対して、H20 年度は 48.3%となっている。国の方針で前倒しで進めているようであり、H22 年度の目標値自体が低すぎるのではないかとと思われる。
- ・国は、小中学校の耐震補強工事に力を入れ 2/3 の補助率で推進しており、川越市もそれに基づいて進めている。現在の予定では H23、24 年度までに 100%全て完了したい考えである。
- 地域との密接な関係において、もっと大学の中に人が入って行くなどの施策を盛り込んでも良いのではないかと。生涯学習を広い範囲で捉えても良いと思われる。また、芸術文化活動の充実について、文化施設の利用者数は増加しているということであるが、芸術鑑賞する場が川越市は少ないと思われるので、それらを一括りにせず、分けて考えたほうが良いのではないかと。
- ・1 点目について、ご意見を参考に今後、大学との連携を図って行きたい。2 点目について、市民が文化や芸術に触れる機会が少ないと認識しており、今年 4 月に新たに文化スポーツ部を立ち上げた。今後、事業を展開して行きたい。
- 進捗状況のなかで、当初の施策選定時には現状が加味されていなかった項目もあるのではないかとと思われる。後期基本計画を策定する上で、社会の情勢を鑑み、命の大切さや食育教育なども含めて柔軟性を持った考え方を取り入れても良いのではないだろうか。
- ・施策策定時から 5 年間を経て、大きく社会経済状況が変化していることもあり、後期基本計画に新たな施策の目標として、ご意見やご指摘を頂ければと思う。
- 「2-5-1 生涯スポーツの推進」のスポーツ実施率について、なぜ減少傾向なのか。一方、H22 年度の目標数値は 57%と上昇しており、関連についてご説明頂きたい。
- ・H22 年度の目標数値設定は、市民アンケート結果を基に H17 年度の 55.9%を目安に設定したものと捉えている。今年度 4 月から文化スポーツ部を創設したことにより、市民の方がスポーツに参加できるような機会を多数設け、目標数値以上で達成できれば良いと考えている。

➤ **第3章 人と環境にやさしい、快適な基盤を備えた魅力あるまち**

- 都市計画道路の整備率や公園の面積について、評価が出ていないような気がする。また、三駅連携強化の推進について、3つの駅が別々に立地しておりわかりにくい。改善に向けては、これからは鉄道事業者も交えて議論する場づくりも必要と考える。
- ・進捗状況の指標について、公園の箇所数は増え目標を達成したが、1人当たりの公園面積については全国平均や埼玉県内の平均よりも下回っており、後期基本計画では更に高い目標に設定し直した。引き続きご意見を賜りながら議論をさせて頂きたい。3駅の分散については、現在、直近の対応として、例えば、連絡通路や橋上化を通じて、少しでも乗り換えの所要時間などを円滑に行きたい考えである。引き続き、より大きな目標として駅の一体化を念頭に置きながら、検討を行う。
- 土地利用構想について、具体的名称が記載されている部分は前期期間で進展があったのか、また、後期基本計画ではどのように考えているのか。
- ・次回の土地利用構想の部分で説明させて頂く。
- 生活道路の定義について教えて頂きたい。
- ・生活道路の定義としては、川越市内の市道のなかに1、2級幹線道路としての位置付けがあり、これら幹線道路を主に生活道路としている。また、そのほか日常生活の活動の基盤となる一般的な道路を生活道路として位置付けている。

➤ **第4章 にぎわいに満ち、活力ある産業を育てるまち**

- 農業の振興に関して、担い手の育成・確保の推進についてC評価となっており、難しい問題であると思われる。地産地消という考えのなかで、いかにしてPRして行くのか、観光と連携を行いながら市民の要望に沿って進めて行けるようにしたい。
- 川越市は県下で2番目に工業団地が多く、雇用も促進され、市の税収にとって有難い存在である。工場等が増えると、街の活性化にもつながり、税収アップが図られる方向で進めて頂きたいと考えている。
- 観光による地域振興については、川越市の良いところも悪いところも直していくという方向で進めて頂ければ、外国の方も感動するのではないだろうか。

➤ **第5章 人と自然がともに生きる、地球環境にやさしいまち**

- 特段なし。

➤ **第6章 人と人とのつながりを感じ、安全で安心して暮らせるまち**

- 人権教育の充実について評価がAとあるが、達成した細施策があるのか。
- ・人権教育については、人権教育の指導者の養成講座などを実施し、講座の参加者数で評価した。

(3) 今後の日程

本日終了できなかった(2)第三次川越市総合計画後期基本計画の策定方針について、(3)第三次川越市総合計画後期基本計画原案について を予定している。

(4) その他

○新年度の機構図を提示頂きたい。

- ・次回に提示させて頂く。

6 副会長あいさつ

梶川副会長より、閉会の挨拶を行った。

7 閉会

以上